

平成 30 年度生産性・品質向上のための IT 活用の現状と
ものづくりマイスターの活用に係る好事例発表及び意見交換会について
(人材育成に係る基調講演と同時開催)

(～ 生産性向上につながる職場環境の改善と人材育成 ～)

1. 日 時 平成 30 年 10 月 22 日 (月) 13:30～16:30

2. 会 場 福井県国際交流会館 多目的ホール

3. 参加者

コーディネーター	北出経営労務事務所 シナジー経営株式会社 代表取締役 北出 慎吾氏
基調講演	株式会社ホリタ
好事例発表	吉田酒造有限会社
パネラー	株式会社ホリタ、吉田酒造有限会社に加え 株式会社 米五

聴講者 71名

4. 基調講演

株式会社ホリタ

代表取締役社長 堀田 敏史 様

三代目社長として経営効率の向上と人材育成をめざし、IT 等も活用して社員全員で目標と価値観を共有することにより、効果を上げている。

- ・マニュアルを本にして全員共有することで全員が同じ方向を向くことができた。
(更新が大事)
- ・新入社員はビジュアルに慣れており、教育にはVTRマニュアルを活用することが効果的である。
- ・価値観の共有の為にチャットワークを活用している。(成功・失敗体験の共有など)
- ・マルチタスクの見える化と給料とのリンクにより、モチベーションが向上している。
- ・勤務シフトと従業員1時間あたりの粗利益をリンクさせて、生産性(時間と人当たりの売上)が見える化することにより、社員が自ら考えて動くようになった。
- ・会社の将来を少し見せて長く勤めてもらえるように、POSシステムの導入とロールモデルを検討している。



5. 生産性・品質向上のためのIT活用を図る企業の好事例発表

吉田酒造有限公司

代表取締役社長 吉田 由香里 様

経営者が亡くなり創業200年の会社存続の判断を迫られたとき、計画的な設備投資を実行し人手にたよる管理からITによる管理に置き換えることなどを決断した。

効率がアップすることにより生まれた時間で品質向上策や新製品を考えたり、また夜勤を含めた長時間労働から解放され社員の待遇改善につながっている。投資回収は継続中である。

- ・アルコール濃度測定の自動化により、人による測定値のばらつき防止や時間短縮ができた。
- ・こうじの温度管理の自動化・グラフ化やWiFiを使った就寝先でのアラームの受け取りにより、効率アップや夜勤の業務が改善された。

人材面では、会社方針に合う杜氏や社員探しが難しかった。

- ・人としての魅力は素直さのあることとあいさつができることで、ここからお互いの考え方を知ることができ、同じ方向を向くことができる。



6. 意見交換（パネルディスカッション）

次のような意見が聞かれました

生産性向上について

効率アップの中には、付加価値を上げる事によるアウトプット向上も含まれる

- ・生産性（時間と人当たりの売上）の見える化で自ら行動を変えて生産性向上
- ・設備投資（IT含む）により時間を生み出し生産性向上
- ・人の作る付加価値の向上による生産性向上（人を育て高品質の少量多品種）

採用について（就職説明会で今回のパネラーの職種のブースに人が並ぶのはなぜ）

- ・説明会に若い社員を出席させる（入社2～3年）
- ・ものづくりに魅力を感じさせるのは若い人の情報発信（杜氏が世代交代し若返り）



7. ものづくりマイスターがITを活用して生産性向上等に資する実技指導を行った事例

→事例なし

8. 全体総括（座長まとめ等）

今回の発表者やパネラーは、社員が10～30名程度の中小企業の方をお願いしており、中小企業ならではの良さと大事な部分というのを今日は聞けたかなと思っております。私自身すごく勉強になることばかりでしたし、うちの会社にも取り入れていきたい話も聞けました。皆様の会社でも是非一つ二つ取り入れていただいて、それを継続することによって、少しでも成果が現れるのではないかなと思います。

